

## 外傷サーベイランス委員会会議録

会議体の名称	第20回(平成30年度第3回)外傷サーベイランス委員会
事務局(担当課)	セーフコミュニティ推進室
開催日時	2019年2月25日(月) 14時15分～15時30分
開催場所	本庁舎5階 庁議室
議事	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 外傷サーベイランス委員会に対する要望について</li> <li>2 各対策委員会における対策の再編成、優先順位の決定、目標設定の見直し検討、評価の観点について</li> <li>3 特に重点的におこなう対策の再構成検討について</li> <li>4 対策委員会における街頭防犯カメラの活用について</li> </ol>
出席者	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 豊島区セーフコミュニティ推進協議会専門委員 市川 政雄</li> <li>2 豊島区セーフコミュニティ推進協議会専門委員 水村 容子</li> <li>3 池袋警察署生活安全課長 世取 治郎</li> <li>4 豊島消防署警防課長代理 長尾 将亨係長</li> <li>5 豊島区政策経営部長 金子 智雄</li> <li>6 防災危機管理課長 廣瀬 陽一</li> <li>7 豊島区治安対策担当課長代理 徳重係長</li> <li>8 豊島区男女平等推進センター長 能登 絹子</li> <li>9 豊島区地域区民ひろば課長 猪飼 敏夫</li> <li>10 豊島区高齢者福祉課長 佐藤 重春</li> <li>11 豊島区障害福祉課長代理 菊池係長</li> <li>12 豊島区池袋保健所長 佐藤 壽志子</li> <li>13 豊島区健康推進課長 関 なおみ</li> <li>14 豊島区長崎健康相談所長 荒井 和子</li> <li>15 豊島区子ども若者課長代理 古澤係長</li> <li>16 豊島区子育て支援課長代理 島崎係長</li> <li>17 豊島区保育課長代理 椎名係長</li> <li>18 豊島区土木管理課長代理 津山主任</li> <li>19 豊島区セーフコミュニティ推進室長 澤田 健</li> </ol>
配布資料	<p>資料1 豊島区セーフコミュニティ年間活動レポート2018</p> <p>資料2-1 評価の観点(1)</p> <p>資料2-2 評価の観点(2)</p> <p>資料3 各対策委員会の対策について</p> <p>資料4 街頭防犯カメラ関連記事</p>

	<p>参考資料1 第2回外傷サーベイランス委員会 会議録</p>
<p>議事要旨</p>	<p>議事1  (事務局より「豊島区セーフコミュニティ年間活動レポート2018」(資料1)について説明)</p> <p>議事2  (委員長より「各対策委員会における対策の再編成、優先順位の決定、目標設定の見直し検討、評価の観点」(資料2-1、2-2)について説明)</p> <p>議事3  委員長:「特に重点的におこなう対策の再構成検討」について発表をお願いします。</p> <p><b>1. 子どものけが・事故予防対策委員会</b>  委員: 短期的な指標である子ども事故予防センターの認知度や家庭での予防策の実施率は上がっているが、長期指標であるけがの発生率は成果があがっていない。  地域の子育て支援人材育成については、区が主導の事業であるため来年度は廃止し、地域の活動を取り入れていくよう検討している。  子ども施設におけるけがについては、現在は顔面受傷事故を対象としているが、最近では保育園が少しのけがでも報告するようになったため、受傷率が上がっているものと思われる。そのため、対策委員会では指標を重傷事故に変更したらどうかという意見が出ている。</p> <p><b>2. 高齢者の安全対策委員会</b>  委員: 今年度、予防対象を2つ増やした。  1つめは高齢者の溺れ。入浴時の溺れが多いため、ヒートショック等への理解を高めていきたい。  2つ目は高齢者の窒息。原因を探ったところ、固形物というよりお粥や包み紙等が上位にあがることがわかった。それらが危険であることの周知を図っていきたい。</p> <p>専門委員: ヒートショックは家屋の構造上の問題が大きな要因なので、溺れとは対策が異なるのでは。  委員: ヒートショックも溺れも入浴環境の危険として啓発していく。今後、より効果的な対策を検討していきたい。</p>

	<p><b>専門委員</b>：入浴事故の発生状況について、救急搬送データではどのようなデータが出ているか？</p> <p><b>委員</b>：平成28年度の救急搬送データによると、4割が死亡事故または重篤事故となっている。また、冬期の救急搬送が多い。</p> <p><b>委員</b>：入浴時の事故は、発見が遅れることによって重症化している例が多い。高齢者を一人で長湯させないような取り組みも必要。</p> <p><b>専門委員</b>：道路事故で亡くなる高齢者よりも、浴室で亡くなる高齢者が多いにも関わらず、あまり重く見られていないことにも問題がある。</p> <p><b>3. 障害者の安全対策委員会</b></p> <p><b>委員</b>：東日本大震災以降の区民の方からの要望を踏まえ、今年度、「災害時の備え、サポート方法の対策」を新しく予防対象に加えた。</p> <p>昨年12月初めに駒込駅付近の横断歩道で視覚障害者の方に死亡事故が発生した。視覚障害者用の支援器具補助の周知も含め、改めて再発防止に努めていきたい。</p> <p><b>専門委員</b>：視覚障害者用の機器とはどういうものか？</p> <p><b>委員</b>：信号を渡るときに音声案内を受けられる機器。区では購入の補助を行っている。</p> <p><b>専門委員</b>：「豊島区障害者防災の手引き」は全戸配布しているのか？</p> <p><b>委員</b>：全戸配布しているかは把握していない。</p> <p><b>専門委員</b>：視覚障害者の事故は、駅のホームからの転落事故が多いが、ホームドアの設置等は事業者の取り組みということから取り組み内容には入っていないのか。</p> <p>また、豊島区では要援護者として、障害者のリストアップを実施しているか？</p> <p><b>委員</b>：ホームドアの設置については、区としては設置の要望を上げていくことは必要だが、設置主体は事業者であると認識している。</p> <p>要援護者のリストアップは障害者、高齢者とも実施している。</p> <p><b>委員</b>：もし、要援護者のリストにすべての障害者がリストアップされていないのであれば、それを充実させることが成果指標になる。</p> <p><b>4. 自転車利用の安全対策委員会</b></p> <p><b>委員</b>：自転車交通事故発生件数が2016年あたりから徐々に増えてしまっていることが現在の課題。対策を見直す必要性について、現在対策委員会で検討している。</p>
--	---

今までは、安全教室の実施やヘルメットの補助は子どもや保護者を対象としていたが、今後は高齢者にも対象を広げていく。

**専門委員：** 自転車事故を劇的に減少させることは難しい。長期的に見て、事故の件数を減らしていければ良い。

世界的に見ても、交通安全の教育は、自転車事故の防止に役立つというデータはあまりない。

「これは危ないな」と思わせるような動画等、何か面白いものができれば。次回の委員会に youtube 等の動画を紹介できるようにしたい。

**専門委員：** 自転車事故は、道路構造に大きな要因がある。自転車レーンの整備を進めることも、対策として取り入れていってはどうか。

**委員：** 来年度の新規・拡充事業において、自転車の走行に関する道路整備を進めていく方向。

#### 5. 繁華街の安全対策委員会

**委員：** 防犯カメラはすでに繁華街には設置済み。現在は住宅街への設置を進めている。

客引き行為数の減少は先止まり感がある。新たな取り組みを進めていく必要があると認識している。

**委員：** 町の方から、4～5年前に補助を受けて設置した防犯カメラが古くなったので付け替えたいという声を受けている。防犯カメラの設置は今後も同じように補助があるのか？

**委員：** 今年度までは12分の1の負担で設置できるが、来年度から都の負担が少なくなるので、設置者の負担が増えることになる。

**専門委員：** 環境浄化パトロールに、学生等も参加してもらったらどうか。

**委員：** 帝京平成大学と立教大学の生徒に参加していただいている。

#### 6. 地震災害の防止対策委員会

**委員：** ハードの施策である建築物の耐火率・耐震化率は建て替え等に伴い少しずつ上がっているが、住民の意識を向上させるようなソフトの施策はなかなか成果が上がっていない。

地域防災訓練の参加率は2割程度にとどまっており、防災訓練のマナー化、高齢化等に対する対策を考え、住民の意識を向上させていくことが必要。

	<p><b>専門委員：</b>造幣局跡の防災公園の整備は区が実施しているのか？</p> <p><b>委員：</b>区が実施している。</p> <p><b>専門委員：</b>防災公園のこけら落としの際に、区民の方が防災に興味を持つようなイベントを実施したら良いのでは。</p> <p><b>委員：</b>防災公園がオープンした後は、従来の防災訓練はなく、若い方も参加しやすいようなイベント性のある防災フェスティバル等を実施していきたいと考えている。</p> <p><b>専門委員：</b>外国人の方への取り組みはどうなっているか？</p> <p><b>委員：</b>防災情報を多言語していくことが必要と考えている。また、来街者の外国人の方への災害時の対策として、帰宅困難者訓練で翻訳アプリや学生通訳などの試みをおこなっている。</p> <p><b>7. 児童虐待の防止対策委員会</b></p> <p><b>委員：</b>学校での児童虐待の発見が、子どもからのSOSによるものか、教師が子どものキズ等を見て声をかけたことによるものなのかを把握していくことが今後の課題。</p> <p>小学校4年生以上を対象にSOSカードを配布。たたく行為や食事を与えない行為が当たり前ではないことを理解してもらい、虐待の早期発見につなげていく。</p> <p>外国人の方が多いため、東部子ども家庭支援センターで、試験的にポケトークを導入。外国籍の方の相談に効果を上げている。</p> <p><b>8. DVの防止対策委員会</b></p> <p><b>委員：</b>今年度、予防対象を見直し、従前の3つを2つに再編した。</p> <p>従前は暴力全体を対象としていたが、身体的暴力に関してはほぼ認知されたので、今年度から精神的暴力の認知の向上に変更した。</p> <p>また、従前は「DV発生の背景にある「性別に起因する差別意識」の解消」を課題として挙げていたが、近年はDV被害者に男性も増えていることから、課題から外した。</p> <p><b>委員：</b>子どもはDVに関する情報を得にくい。中学生の生徒手帳に掲載するなど、情報提供ができると良い。</p> <p><b>9.. 自殺・うつ病の予防対策委員会</b></p> <p><b>委員：</b>今年度は「豊島区自殺対策計画」を策定するため、有識者の方々と共に対策委員会を拡大して取り組んできた。</p> <p>国の自殺対策計画の基本施策にも、「相談窓口の周知」「ゲートキーパ</p>
--	--

	<p>一の養成」が含まれているため、課題として設定している。 今後は全職員にゲートキーパーの研修を実施していく。また、うつ病の受診支援として、精神障害者に対するアウトリーチ事業を立ち上げており、力を入れていきたい。</p> <p><b>議事4</b> <b>(委員長より「街頭防犯カメラの設置(資料4)」について説明)</b></p> <p><b>委員長:</b>区内に設置している防犯カメラの映像をセーフコミュニティの取組みに活用することはできるのか？</p> <p><b>委員:</b>防犯カメラは設置していただく際に運用規約を作成してもらっている。現在の規約では映像を活用できるのは犯罪捜査のみ。</p> <p><b>閉会</b></p>
--	--